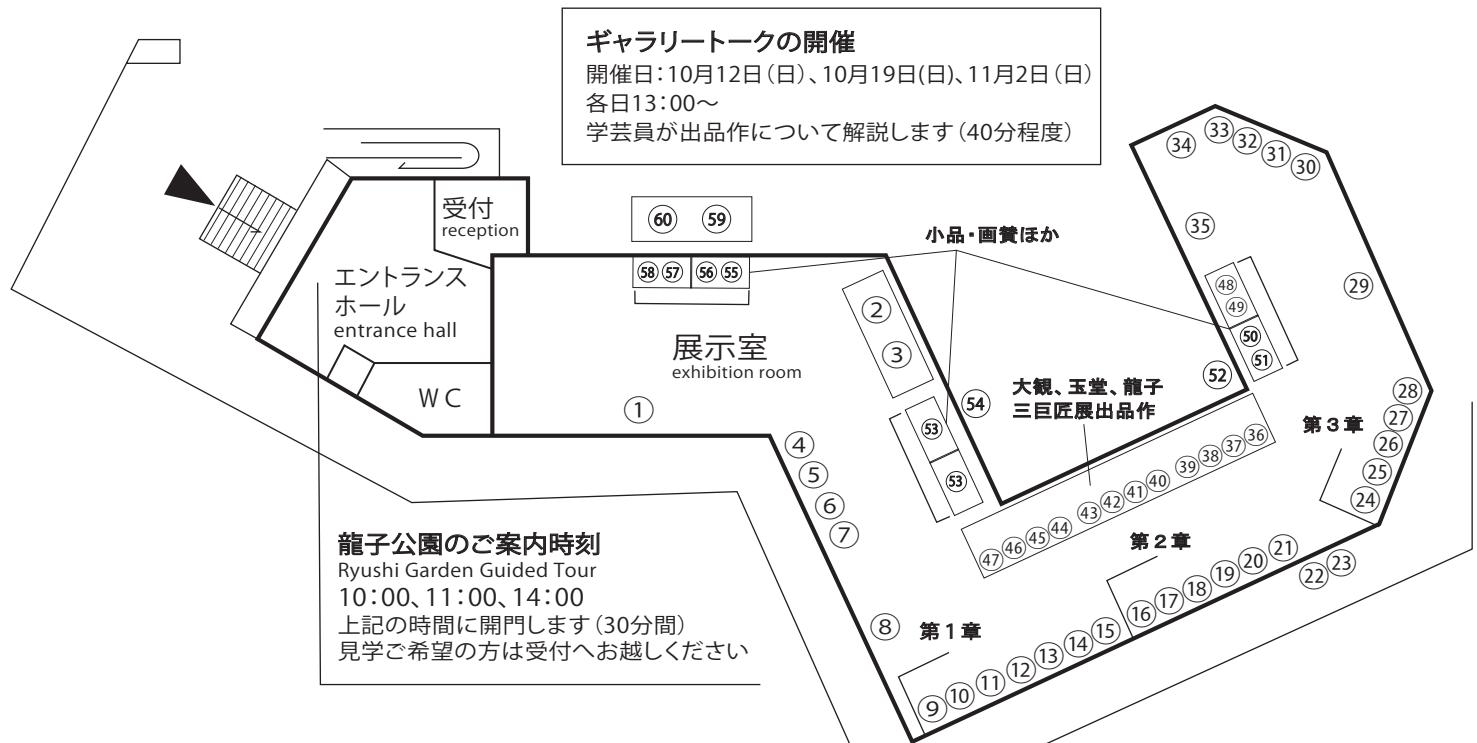


大田区立龍子記念館 川端龍子生誕140年特別展 「川合玉堂と川端龍子」 2025年10月11日(土)～11月9日(日)

October 11 - November 9, 2025 | Ryushi Memorial Museum

Special Exhibition Commemorating the 140th Anniversary of Kawabata Ryushi's Birth "Kawai Gyokudo and Kawabata

Ryushi Memorial Museum was established in 1963 by Japanese-style painting artist Kawabata Ryushi (1885–1966), based on his own vision. To mark the 140th anniversary of his birth, the museum is presenting a special exhibition focusing on Ryushi's connection with fellow artist Kawai Gyokudo (1873–1957), who was renowned for his portrayals of nostalgic landscapes and everyday life in traditional Japan.



展示作品

作者	作品名	制作年、サイズ 縦×横cm 技法・材質・形状 所蔵	⑩ 川合玉堂 「夏雨五位鶯」 1899年 114.0×41.5 絹本着色・軸装 玉堂美術館	
① 川合玉堂	「紅白梅」	1919年 各 170.0×372.0 紙本着色屏風・六曲一双 玉堂美術館	⑪ 川合玉堂 「高嶺残雪」 1907年頃 120.8×50.1 絹本着色・額装 パラミタミュージアム	
② 川合玉堂	「山村春色」	1913年頃 107.0×237.0 絹本着色・屏風・六曲一隻 パラミタミュージアム	⑫ 川合玉堂 「溪村春色」 1907年 118.8×50.0 絹本着色・軸装 玉堂美術館	
③ 川合玉堂	「稻田の鶴」	1928年 各 165.5×170.0 紙本着色・屏風・二曲一双 公益財団法人北野美術館	⑬ 川合玉堂 「柘榴白鶯」「琵琶黄鳥」 1924年 各 123.0×42.0 絹本着色・軸装 玉堂美術館	
④ 川合玉堂	「鳩飼」	1896年 111.5×43.0 絹本着色・軸装 玉堂美術館	⑮ 川合玉堂 「春の宵」 1938年 各 132.3×32.5 絹本淡彩・軸装・対幅 玉堂美術館	
⑤ 川合玉堂	「鳩飼」	1951年 54.0×72.0 紙本着色・軸装 水野美術館	第2章 激動の時代における玉堂の制作	
⑥ 川合玉堂	「鳩飼」	1956年 60.5×75.0 紙本着色・額装 玉堂美術館	⑯ 川合玉堂 「彩雨」 1940年 88.0×117.2 絹本着色・軸装 東京国立近代美術館	
⑦ 川合玉堂	「鳩飼」	1944年頃 48.5×65.0 紙本着色・額装 パラミタミュージアム	⑰ 川合玉堂 「紀元節」 1944年 69.3×86.3 絹本着色・軸装 玉堂美術館	
⑧ 川端龍子	「海鳩」	1963年 245.4×727.2 紙本着色・額装六枚一面 大田区立龍子記念館	⑱ 川合玉堂 「荒海」 1944年 85.8×117.6 絹本着色・軸装 山種美術館	
第1章 修学時代から玉堂芸術の確立まで		⑲ 川合玉堂 「山驛の春」 1945年 46.0×58.0 絹本着色・軸装 玉堂美術館		
⑨ 川合玉堂	「義士討入之図」	1890年 115.5×44.4 紙本着色・軸装 玉堂美術館	⑳ 川合玉堂 「水声鳥語」 1951年 45.0×57.5 絹本着色・軸装 玉堂美術館	

裏面へ ➔

大田区立龍子記念館 Ryushi Memorial Museum

川端龍子生誕140年特別展「川合玉堂と川端龍子」 2025年10月11日(土)～11月9日(火)

Special Exhibition Commemorating the 140th Anniversary of Kawabata Ryushi's Birth "Kawai Gyokudo and Kawabata Ryushi"

(21) 川合玉堂	「鮎釣」	1946年 55.0×72.5 絹本彩色・軸装 個人蔵
(22) 川合玉堂	「時雨」	1953年頃 43.0×57.0 絹本彩色・額装 パラミタミュージアム
(23) 川合玉堂	「雪国」	1945年頃 41.2×57.0 絹本彩色・額装 パラミタミュージアム

第3章 奥多摩での暮らし 円熟の境地へ

(24) 川合玉堂	「春光」	1948年 57.5×71.5 絹本彩色・軸装 個人蔵
(25) 川合玉堂	「夏川」	1953年 62.0×90.5 紙本彩色・軸装 個人蔵
(26) 川合玉堂	「五月晴」	1947年 55.0×72.0 絹本彩色・額装 青梅信用金庫
(27) 川合玉堂	「小春」	1953年 66.8×89.5 紙本彩色・額装 青梅信用金庫
(28) 川合玉堂	「河畔梅家」	1951年 50.5×71.7 絹本彩色・額装 青梅信用金庫
(29) 川端龍子	「御来迎」	1957年 243.6×723.8 紙本彩色・額装六枚一面 大田区立龍子記念館
30～33 川合玉堂	「水四題」 飛燕・河鹿・鶴鶴・尉鶴	1953年 各 48.0×59.2 紙本彩色・軸装 個人蔵
(34) 川合玉堂	「雨後」	1957年 66.6×81.0 紙本彩色・額装 玉堂美術館
(35) 川合玉堂	「わがあゆみ」	1952年頃 34.4×45.2 紙本彩色・軸装 玉堂美術館

第3回雪月花展出品作

(36) 大観、玉堂、龍子 書合作	「雪月花」	1954年 85.3×59.0 紙本墨書・軸装
(37) 横山大観	「花吹雪」	1954年 55.4×72.4 絹本彩色・軸装
(38) 川合玉堂	「月天心」	1954年 55.7×72.5 絹本彩色・軸装
(39) 川端龍子	「若鮎」	1954年 57.8×72.5 絹本彩色・軸装 いずれもパラミタミュージアム

第2回松竹梅展出品作

(40) 龍子、玉堂、大観 書合作	「松竹梅」	1956年 79.5×60.0 紙本墨書・軸装
(41) 川端龍子	「唐崎夜雨」	1956年 55.7×71.6 絹本彩色・軸装
(42) 横山大観	「竹外一枝」	1956年 55.7×71.6 絹本彩色・軸装
(43) 川合玉堂	「野梅」	1956年 55.7×71.6 絹本彩色・軸装 いずれも水野美術館

第3回松竹梅展出品作	(44) 玉堂、龍子、大観 書合作	「松竹梅」	1957年 83.2×58.0 紙本墨書・軸装
(45) 川合玉堂	「若松」	1957年 47.3×59.5 紙本彩色・軸装	
(46) 川端龍子	「昔嘶」	1957年 56.8×71.6 絹本彩色・軸装	
(47) 横山大観	「紅梅」	1957年 53.3×71.8 絹本彩色・軸装 いずれもパラミタミュージアム	

小品・画贊・関連資料

(48) 川合玉堂	「富嶽」	1952年 26.6×23.4 紙本彩色・軸装 玉堂美術館
(49) 川合玉堂	「岩うちわ」	1953年 24.6×22.2 紙本彩色・額装 玉堂美術館
(50) 川合玉堂	「ひなた 日南」	1955年頃 28.8×41.5 紙本彩色・軸装 玉堂美術館
(51) 川合玉堂	「猫の恋」	不詳 29.0×42.7 紙本彩色・軸装 玉堂美術館
(52) 川合玉堂	「盆踊」	不詳 24.4×21.7 紙本彩色・額装 玉堂美術館
(53) 川合玉堂	「短冊十二ヶ月揃」	1910年頃 各 36.0×7.3 絹本彩色・短冊・額四面 玉堂美術館
(54) 川端龍子	「菊三茎」	不詳 52.9×71.6 絹本着色・額装 青梅信用金庫
(55) 川合玉堂	「佳日」	1940年 各 27.0 紙本彩色・扇子 玉堂美術館
(56) 川合玉堂	「古稀の坂」	1942年頃 14.2×35.8 紙本彩色・扇面・額装 玉堂美術館
(57) 川合玉堂	「自画像」	1953年 21.6×32.1 紙本水墨・額装 玉堂美術館
(58) 川端龍子	「玉堂先生を悼む」	1957年 32.4×5.7 紙本墨畫・短冊・額装 玉堂美術館
(59) 製作：石橋幹一郎 監修：ブリヂストン美術館映画委員会 『川合玉堂』（『美術家シリーズ』第2巻）	1953年 10分56秒	「ブリヂストン美術館映画シリーズより」 石橋財団アーティゾン美術館
(60) 製作：石橋幹一郎 監修：ブリヂストン美術館映画委員会 『美術家訪問 第1集／伊東深水・川島理一郎・斎藤与里・高村豊周・熊谷守一・平櫛田中・川端龍子』（川端龍子の部分のみ）	1954年 2分10秒	「ブリヂストン美術館映画シリーズより」 石橋財団アーティゾン美術館

主催：（公財）大田区文化振興協会、日本経済新聞社

【関連イベント】 ギャラリートーク：10月12日、19日、11月2日
特別展講演会：10月18日 13:30～15:00 会場 大田文化の森

○「東京文化財ウィーク2025」特別公開事業

10月25日(土)、26日(日)、11月1日(土)～3日(月・祝) 各日10:00～15:00

龍子公園を開放し、園内を散策しながら国の登録有形文化財に指定された旧川端龍子邸、画室等を外周からご覧いただけます。

○次回展予告 名作展「源流へのまなざし モティーフで見る川端龍子」

2025年12月6日(土)～2026年3月8日(日)

日本画家・川端龍子の作品を「古典的モティーフ」、「現実にあるモデル」という視点から紹介。古典の名作を画中に描き、龍子独自の表現を加えた《虎の間》(1947年)や、ゆったりと休む孔雀明王を描いた《やすらい》(1958年)などをご覧いただけます。